

日経平均株価

3万1624円28銭

▼662円93銭(前日比)

TOPIX

2266.40

▼20.19(前日比)

www.marketpress.jp

2023

8/28

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

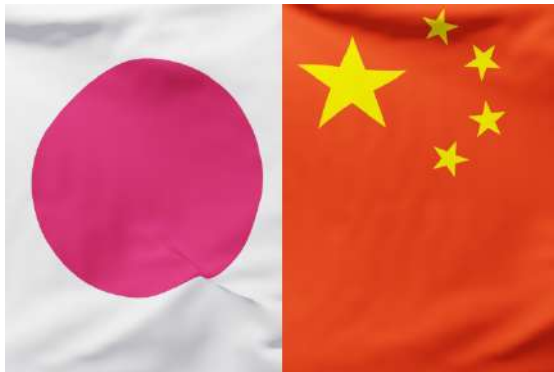
〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



増える日本企業の脱中国 撤退によるリスク回避を評価！



中国から撤退する日本企業が増えている

は22年6月時点に進
ンク調査で
国データに
が因みに帝
本企業で拡
の認識が日
クが高いと
出するリス
トより、進
するメリッ
で事業展開
まり、中国
壊懸念が高
請で不動産

長安鈴 829(726)が
201

今年に入って中国
リスクが一段と高ま
っている。その象徴
的な動きとなったの
がアステラス製薬
(4503)の社員
である50代日本人
男性が「反スパイ
法」に違反した疑い

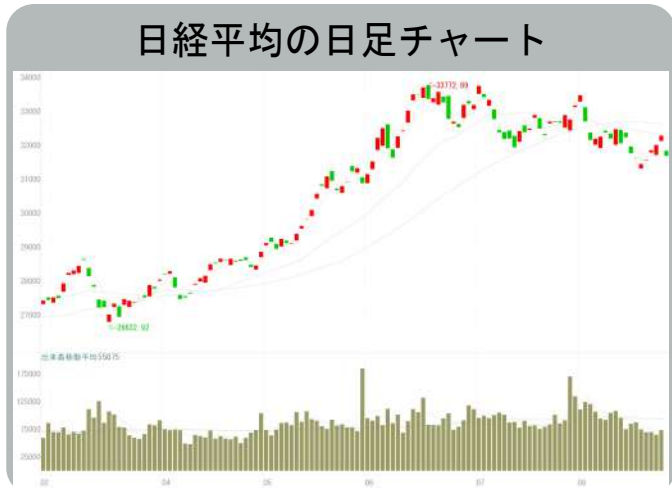
があるとして、中国
国家安全局によつて、
日本への帰国直前に
拘束され、中国外務
省がその事実を認め
たことだ。そして今
回、「恒大集団」の
米連保破産法適用申
請で不動産バブル崩

壊懸念が高
なること
を注目を
集める企
業を進め
る中国
脱中国
を拡大し
う。減少
傾向は今
後

主要企業の依存度低下

中国不動産大手「恒大集団」が米連保破産法15条の適用を申請したことを受けて、中国の不動産バブル崩壊による経済への先行き不安が高まった。かねてより「中国がくしゃみすれば日本もくしゃみする」と言われ、日本企業への影響が懸念されているが、日本の主要企業の多くは中国依存度を低下させる動きを強めており、以前よりは中国リスクへの影響は少なくなっている。そこで中国から他のアジア地域などへ拠点シフトを進めている「脱中国」銘柄をピックアップした。

出企業
は1万
279



木のスズキ持ち分である50%の株式を長安汽車に譲渡し、中国における自動車の生産からの撤退している。同社はインドで絶大なブランド力を構築、ホンダ(7267)も中国抜きでサプライチェーン構築が伝えられている。更に複合機ではキヤノン(7751)や富士フイルムホールディングス(4901)の系列企業が中国からの撤退を表明している。

8月第3週の動意銘柄

ダイコク電ストツプ高

第1四半期は営業利益21倍

連休明け14日、ダイコク電機（6430）がストツプ高。24年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比21・3倍の48億3700万円となったことが好感された。スマート遊技機専用を含むカードユニット「VEGAS IA」、情報公開端末「REVOLRA」、

「BIGMOPRE

Miaki 37% 営業減益

ミマキエンジニアリング（6638）

AmidAHDはTOB

が急落。24年3月期の第1四半期（決算は、連結営業利益で前年同期比37・

AmidAHD（7671）がストツプ高。ラクスル（4384）が同社株に

対してTOBを実施すると発表し、今後の新技術・新製品開発に向けた研究開発費の増加や人件費、グローバルでの展示会への積極的な出展などの営業活動に伴う費用が増加した。

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に反発、日経平均は前の週から173円上昇している。米長期金利上昇に「一服感が出てきたこと」で週初から戻りを試す動きになり、エヌビディアが予想を上回る好決算を発表、株価が急上昇したことを受けて、24日まで上昇し、週末25日は線を引き、米長期金利を受け、6月より、上値重なり、上値注目のジヤクソンホール会合でB議長講演は、タカ派のおむね想定内で、米長期株は反発に転じて買いが先行しそうです。8月雇用統計発表を控

出直る新興グロースに照準

積極的な買いは手控えられると考えられ、底入れから出直ってきた新興グロース株に照準を合わせたいと思います。



花咲翁

バイセル計画未達懸念

また3000億円を行う。

郵政自己株取得期間決定

日本郵政（6178）が反発。未定としていた自己株式取得枠の設定に関して8月15日から24年3月31日とした。

電通G通期下方修正

電通グループ（4324）が大幅下落。23年12月期第2四半期累計の連結決算は、営業利益214億5900万円（前年同期比67・9%減）と大幅減益で着地、通期予想を1543億円から1265億円（前期比7・6%増）

久世は大幅上方修正

15日、久世（2708）がストツプ高。24年3月期の業績予想について、連結売上高で625億円から640億円（前期比13・4%増）へ、営業利益で6億500万円から13億500万円（同60・2%増）へ大幅に上方修正した。法人活

ダイコク電の日足チャート



動が活発化しインバウンドの戻りやいわゆるリベンジ消費も寄与した。

動が活発化しインバウンドの戻りやいわゆるリベンジ消費も寄与した。

に下方修正した。海外でオーガニック成長率が鈍化しており、直近3カ月の4〜6月期は赤字に転落している。

また3000億円を行う。

また3000億円を行う。



三菱UFJの
日足チャート

銀行株の下げ目立つ

格下げで米金融株安の流れ波及

三菱UFJ 16日、JFファイナ、ンシヤ、ル・グル、プ(8、306)、三井住友、ファイナン、シャルグ、ループ(831、6)、みずほファイナンシャルグループ(8411)のメ

前日の米国株市場で、ゴールドマン・サックスやJPモルガン、バンクアメなど大手金融株が軒並み売られた流れが波及。長期金利上昇をフォローし、高価値圏にあることから利益確定売りが上値を抑えた。

住友林大幅高で最高値

住友林業(1911)が大幅高で最高値を更新した。ウオーレン・バフェット

三栄建築はTOBで続騰

17日、三栄建築設計(3228)が続騰。オープンハウスグループ(3288)が完全子会社化を目的にTOBを実施すると発表したことを受け、買い付け価格2025円にサヤ寄せして水準を切り上げた。同社は暴力団組長への利益供与問題で経営不安定化しており、オープンハウス傘下で経営

氏率いる米バークシャー・ハザウェイがSECに届け出た6月末時点の保有銘柄リストで米大手住宅メーカーのDRホールン株を約7億2600万ドル分のほか、レナー株などを新規に取得していたことが判明、DRホールン株は前日比2.9%上昇、レナーも1.8%上昇しており、米国で住宅事業を展開する同社にも連想買いが入った。

総医研6割最終減益

総医研ホールディング(2385)が急落。24年6月期は、純利益で前期比60.1%減の1億8000万円を見込んだことが嫌気された。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料 0円 金利・貸株料 0~1.8%

取引
コスト

プレミアム
空売り

独自
サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



アトラグループ急伸

メデイシークと新サービス

17日、アトラグループ(6029)が急伸。メデイアシーク(4824)と接骨院向けブレインテックサービスの提供を開始すると発表。早期事業化と収益貢献を期待された。同社が提供する院内管理システムとメデイアシークのブレインテックトレーニングサービスをシステム連携することで新しい施術の実施を促すとして

いる。

週末18日ヘッドウォータース(4011)がストップ高。日本マイクログラフが提供する「Azure OpenAI Service」を活用した生成AIプラットフォーム「Synclum」を生成AIサービスを開始し、発表したことを受け、利用拡大

と収益貢献が期待された。ChatGPT単体ではできない機能課題に対応するプラットフォームでChatGPTカスタム済みの機能を提供、独自学習済みの対話エージェントを呼び出して利用することもできるという。

モンラボは業績不安

モンスタールラボホールディングス(5255)が連日の安値更新。14日に23年12月期業績予想について、連結営業損益で14億6800万円の赤字から12億5500万円の赤字(前期3億3900万円の赤字)へ下方修正しており、業績不安からの売り

が止まない。

JDSCストップ高

JDSC(4418)がストップ高。メールカスタマーセンターを子会社化する」と発表した。メールカスタマーはDM

發送代行業界で700社超の顧客基盤を有する業界大手で、事業展開上の大きなアドバンテージを活用し、年間約3億通のDMを取り扱うことで膨大なデータを保有している。

MHG計画未達成

エム・エイチ・グループ(9439)が急落。23年6月期決算を発表、純利益では当初計画の4000万円に對して2400万円(前の期比42.2%増)と未達で着地したことが嫌気された。減損損失900万円、店舗閉鎖損失200万円を特別損失として計上したことが収益を圧迫。24年6月期は4000万円(前期比66.6%増)を見込んで

転ばぬ先のテクニカル

突込み買い、戻り売り

先週の東京株式市場は反発しましたが、本紙8月14日号で指摘したように戻り売り相場に変わりはありません。8月17日の変化日から下値が堅いイメージにより、先週は21日から4連騰し日経平均は一時3万2000円台を回復しました。

しかし、右肩下がりの25日線が視野に入ると、週末25日はジャクソンホール会合前のリスク回避で急落し、週足ローソク足は上髭の陽線形成。日足は24日の陽線の左右が窓空きとなるアイランドリバーサル形状で5日線割れとなり、チャート形状は一気に悪化してしまいました。

当面はやはり戻り売り相場に変わりはないようですが、2021年相場のダブルトップを形成した3万700円台は下値サポートとなるために押し目は買いで臨むところでしょう。

日々勇太朗



アトラGの日足チャート



日製麻1Q営業益3倍

8月第4週の動意銘柄

週明け21日、日本製麻(3306)がストップ高。23年3月期の第1四半

期(4~6月)決算では営業利益で前年同期比3倍の8100万円を計上して

り、業績拡大期待からの見直し買いが流入した。新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、飲食業界においても円安の影響に伴うイン

バウンド需要などによって緩やかな景気の回復がみられるなか、観光地用商品や業務用パスタの売上は好調に推移している。

～決算情報～

クオルテック

今月は2割増収利益倍増

電動化需要取り込み通信進出

クオルテック（9165）は24年6月期の単体業績について、売上高39億9900万円（前期比22.1%増）、営業利益6億1900万円（同2.0倍）、最終利益4億1400万円（同97.5%増）と2割強の増収、利益倍増を見込んだ。大幅な収益拡大に伴い、期末一括配当を42円（前期37円）に増配する。信頼性評価は自動車電動化加速による旺盛な開発需要を取り込むみ、微細加工は通信に加えヘルスケア分野への進出を本格化する。

24年6月期半導体不足の影響を受け、売上高32億7400万円（前の期比3.8%増）、営業利益3億400万円（同12.6%減）、最終利益2億1000万円（同35.8%減）と微増収減益で着地した。

近鉄百貨は上方修正

23日、近鉄百貨店（8244）が大幅反発。24年2月期の業績予想について、連結売上高で1107億9900万円（前期比4.5%増）へ、営業利益で30億9900万円（前期比4.3%増）へ

上方修正した。マスク着用緩和や新型コロナウイルスの5類移行など感染対策の大幅な緩和により外出機会が増加した効果が出ている。

芝浦は需給悪化警戒

芝浦メカトロニクス（6590）が急反落。自己株式取得枠を設定する一方、主要株主の東芝（6502）やニューフ

レアテクノロジが保有する全株式について、売却しを発表したことで、需給悪化を警戒した売りが優勢になった。自社株買いは上限13万7200株（発行済株式総数に対する割合3.1%）、対して売却株式数は70万3500株、上限10万5500株のオーダーによる売却しも。

ニチリョクがストップ高

第1四半期営業黒字に転換

を果たしており、業績回復を見直す動きが

21日、ニチリョク（757）がストップ高。23年3月期の第1四半期決算では営業利益で6600万円（前年同期3800万円）の赤字と黒字転換

ニチリョクの日足チャート



強まった。お墓や葬儀だけでなく終活に関連する相続や保険などあらゆるサービスを提供する「総合シニ

銀行が上昇率トップ

米金利高水準で国内も上昇圧力

22日、三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）などメガバンク、京都銀行（8369）をはじめとした地銀を含め、銀行株が軒並み高。東証上場33業種中、銀行が上昇率トップに

回りが一時4.35%に乗せ、2007年以来的高水準に上昇。円債市場でも長期金利に上昇圧力が加かかっており、銀行株には運用利ザヤ改善を期待した買いが広がった。米景気指標は堅調でFRBによる利上げ長期化観測が強く、ジャクソンホール会

アライフサポート企業」への転換に取り組んでおり、業績拡大期待が高まった。

アジャイルはストップ高

アジャイルメデイ

ア・ネットワーク（6573）がストップ高。トリニティと販売代理店契約を結び、デジタル広告の詐欺不正行為アドフラウドを検出する「Ad Protect」を発売したと発表したことで、販売増と収益貢献が期待された。アドフラウドによる被害額は年間約1300億円と推定され、

議でもパウエル議長の方針的発言が予想されている。

サカイ引越は売出し

サカイ引越センター（9039）が大幅に5日続落。69万6000株の株式売り出しを発表したことで株式の希薄化懸念が台頭した。同時に9月30日を基準日として1対2の株式分割を実施する。

有効な対策を提供すること、企業のデジタルマーケティング活動をより安全かつ効果的に行うためのサポートを目指すとして

自動車や薬品にも妙味

23)のアルツハイマー治療薬「レカネマ

先週の日経平均は3万2000円台まで戻す動きになりました。エヌビディアが市場予想を上回る好決算を発表したことでハイテク系銘柄が買い戻され、アドバンテスト(6857)や東京エレクトロン(8035)の主力はもとより、ブイ・テクノロジ(7717)やTOWA(6315)、太陽誘電(6976)などの中堅どころも上値を窺う動きです。また情報通信ではNEC(6701)は高値圏で推移し、さらに上値に向かう可能性がでており、内需系ではJR西日本(9021)がしっかりと、上

ブーの製造承認を想定して物色される場面がありました。株価は25日線が下値サポートとして意識されいますが、今後は製造承認後の動向を期待して上値追いに転じると期待しています。医薬品では参天製薬(4536)にも引き続き注

これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!

高野恭壽の株式情報



このほか、医薬品ではエーザイ(45)

期待しています。台の回復を期待したいところですが、ソフトバンクグループ(9984)も7000円台奪回を期待です。

SBG7000円奪回へ

目(6326)も反発に転じました。2200円

当欄で注目。野に入りそうです。10日の高値2104円も視野に入ります。

目(6326)も反発に転じました。2200円台まで戻りました。8月10日の高値2104円も視野に入ります。野に入りそうです。

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

JR株に買い広がる

JR東海が株式分割発表

23日、JR東海(9022)が反発。22日取引終了後、9月30日を基準日として1株を5株に株式分割を実施すると発表したことが買い手掛かりになった。投資単当たり金額を引き下げることで投資しやすい環境を整え、投資家層の拡大を図ることが目的。併せて24年3月31日の権利分から長期保有株主に対して株主優待割引券を追加で発行する新

制度も導入する。株



JR東海の日足チャート

式分割や株主優待への思惑からJR東日本(9020)やJR西日本(9021)のJR各社に買いが広がった。

半導体や生成AIに買い

135億ドルと前年同期比2倍、調整後一株当たり利益も2・70ドルと市場予想を大幅に超過、AI向け半導体の需要が急増しており、8月10日期売上高見通しも約160億ドルと市場予想を大幅に上回り、株価は時間外取引で一時9

2)がストッパ高。リクルートとの業務提携を発表した。リクルートが提供する「申込サポートbySUMO」とスマサポが提供する「スマサポサンキュー」の連携を図る。

24日、アドバンテスト(6857)、ディスコ(6146)など半導体関連やさくらインターネット(3778)、ブレインパッド(3655)など生成AI関連に買いが広がった。米エヌビディアの5月7月期決算は売上高

「事実」としている。スマサポはリクルートと提携

プロルート疑惑報道

プロルート丸光(8256)が続急落。株価をつり上げる目的で虚偽の事実を公表した疑いで関連会社の幹部らが東京地検特捜部から事情聴取されていたと報じられた。特捜部は監視委と連携して実態解明を進めるとしており、会社側も強制調査に関して

年後半は上昇の公算

半導体や高配当銘柄の押し目

光世証券
取締役 **西川 雅博 氏**

米AI関連株の業績が市場予想以上に飛躍している。金融政策や景気動向などファンダメンタルズの重苦しい不透明感を払拭するほどのインパクトだ。従来の循環論の見地では景気後退と逆業績相場が気になる局面だが、改めて技術革新がもたらす産業構造の変革スピードを意識させられる。関連銘柄には追い風になる。



相場展望

昨年はジャクソンホールでパウエル氏が急速な金融引き締め継続を示唆し、マーケットは波乱含みになった。NYダウは1カ月で10%以上下落している。それだけに今年には事前に警戒する向きが多かったようだが、ただ、昨年とは金融引き締め局面が違う。イベント通過が安心感につながり逆の目が出ることもあるのではないだろうか。FRBは当面楽観論をけん制しつつ景気後退にも配慮するという中立姿勢を堅持するのがメインシナリオだろう。

1970年以降4年ごとの米大統領選挙サイクルと米国株価

足元で日柄調整色を強めている日本株だが、業績見通しは概ね好調だ。コンセンサス予想も徐々に上振れており、現在の今期予想増益率は7%程度である。日経平均予想PER(構成ウエイトを考慮した値)のレンジ上限(12カ月移動平均+1標準偏差)は3万4170円まで上昇した。日経平均がキャッチアップして高値をつけた6月中旬当時は3万3370円だったので約800円水準訂正している。逆にこの間株価は調整しているため、約2500円幅の上げ余地が生じている。秋から年末にかけてインバウンドや円安効果により業績の上振れモメンタムは継続すると見ており、半導体関連や高配当銘柄の押し目買いが有効な局面だろう。

個別では日本郵政(6178)、東京エレクトロン(8035)、ソフトバンクグループ(9984)。

環境管とアクアラス高

原発処理水海洋放出で連想買い

週末25日、環境管理センター(4657)とアクアライ

アドテスト下落目立つ

ン(6173)がストップ高まで買われた。東京電力福島第1原発処理水の海洋放出が24日始まったことを受けて、環境総合コンサルタントでダイオキシンなど超微量分析に強みを持つ環境管理センターと水回りサービスの手がけるアクアラインが連想買いを誘い、全般急落地合いのなか人気を集めた。

アドバンテスト(6857)が9.7%近い大幅下落。市場予想を上回る好決算を発表したエヌビディアの株価が24日に急伸したあと失速したことやSOX指数が下落したことを受けてハイテク株売りで特に同社株の急落が目立った。

グッドスピードあく抜け

グッドスピード(7676)がストップ高。過去の保険金請求に関する自主調査の経過報告を発表したことを受け、目先のあく抜け感から買いが優勢になった。調査案件総数は1051件で、うち損害保険会社との再協定が必要な案件は30件で、金額は63万3950円だった。

環境管理の日足チャート



チャート から読む 騰落銘柄

グッドキューブ(9561)



第2四半期決算悪を嫌気して8月21日に464円の安値付けるも500円台まで戻し落ち着き取り戻す。AI活用の馬予想では新たな展開に期待する向きも。25日線抜けなら7月高値600円までの戻りも。

三菱重工業(7011)



1Q営業益2.5倍がポジティブサプライズ。大勢上昇トレンドのなか、15年6月高値8050円奪回から一段高へ。脱炭素や防衛などテーマ性に富み、今年度後半相場の柱として市場の期待は大きい。

コメ兵HD(2780)



インバウンド効果による24年3月期予想の上方修正テコに8月24日に6390円の高値付けるも、44万5000株超の買い残重石で流石に目先は調整入りか。中国観光客想定以下も過熱感冷ます一因。

レノバ(9519)



大勢下降トレンドのなか25日線に上値を抑えられ下値模索が続く。1Q7割最終減益で低進捗。押し目買いに信用買い残が膨らみ、22年2月安値1271円を割り込めば、700円台までフシ目はない。

星野三太郎の株街往来

～意味が分からな い名前の変更～

TwitterがXへとアプリ名が変更されてほぼ1カ月が経過した。偶然なんだろうけどマイクrosoftのゲーム機がXboxだったのだから、米国人はXという文字が好きなのかと勝手に想像したりしたが、理由がどうあれ長年慣れ親しんだ名称が変更されることには個人的に

Twitter



は残念で仕方がない。

因みに社名では、旭硝子がAGCへ、最近では日本電産がニデックに変更されたときには同じく残念に思ってしまった。一方、新日本製鉄と住友金属が統合して誕生した新日鉄住金は、その後、日本製鉄に変更した。この社名は財閥解体により八幡製鉄と富士製鉄に分割される前の商号「日本製鉄」に復するものだが、この古い社名に変更したときには深い理由はないが安心してしまった。青い鳥のマークでTwitterの方が親しみやすさがある。そして社名なら、日本人なら漢字のほうが事業内容が想像できるから分かりやすい。それが国際基準なのかどうか分からないけど、英語やカタカナの名前が増えてきて、訳が分からなくなってしまう。因みに弊紙は泥臭く漢字の名前は変えません。



New product

永谷園HD 全国で秋冬限定発売

「1本でしじみ70個分のちから缶みそ汁」



永谷園ホールディングス(2899)は1食当たり25mgのオルニチン含有の缶入りみそ汁「1本でしじみ70個分のちから缶みそ汁」(税抜130円)を8月28日から全国で秋冬限定発売する。

健康を気にされる方やお酒好きの方をはじめ、多くの方に好評を得ている

「1杯でしじみ70個分のちから」シリーズから、場所を選ばず手軽に楽しめる缶タイプとして2015年に発売。現在では秋冬の定番商品となっており、今年も手軽に楽しめるおみそ汁として提案。しじみの風味とうまさはそのままに、よりマイルドで飲みやすくなり、しじみ70個分相当のオルニチン25mgが摂取できる飲みきりサイズにしている。ランチのお供に、お酒の後に、場所を選ばず手軽にしじみのおみそ汁が楽しめる。

「焼肉きんぐ 帯広店」開店

物語コーポレーション

限定webクーポンを配布中



焼肉きんぐ 帯広店

「焼肉きんぐ 帯広店」(北海道帯広市)をグランドオープンする。

「焼肉きんぐ 帯広店」は、焼肉きんぐの3つのコースを用意している。テーブルオーダーバイキング形式の焼肉食べ放題専門店と、すべてを注文するスタイルの常のバイキングやビュッフェ形式とは違い、食事中に席を立つことなく、ゆっくりと過ごすことができる。食べ放題には「58品コース」「きんぐコース」「プレミアムコース」

物語コーポレーション(3097)

企業レター

11月30日まで利用できる「焼肉きんぐ 帯広店」限定のwebクーポンを配布している。

潮流

市場の変化を見逃すな!

急落しても絶好の買いチャンス

marKet/bAnk



利が一時、4.35%と2007年11月以来、15年9カ月ぶりの高水準を付けた。しかし、ハイテク株比率が高いナスダック総合株価指数は上昇して終えた。金利上昇→ハイテク売りにはならなかったのだ。

この日は画像処理半導体のエヌビディアが8%上昇するなど、マグニフィセント・セブン（アップル、マイクロソフト、アルファベット、アマゾン・ドットコム、エヌビディア、テスラ、メタ）といった主力ハイテク株が買われた。

日本でも米国市場での長期金利上昇を受け、国債の売り圧力が強まった。22日の東京市場で、長期金利の代表的な指標となる新発10年物国債の流通利回りが一時、0.665%まで上昇（債券価格は下落）した。2014年1月以来、約9年半ぶりの高水準を更新した。しかし、金利上昇で円高に振れたが、金利上昇→円高→株安にはならず、この日の日経平均は291円高の3万1856円と大幅上昇して終えた。

米連邦準備理事会（FRB）が政策金利を長期にわたって高く維持するとの警戒感が根強く、パウエルFRB議長がカンザスシティ連銀主催の国際経済シンポジウム（ジャクソンホール

日米の株式市場に変化の兆候が現われた。

8月21日の米国市場で長期金

会議）で、25日に講演を控えているにも関わらず、日経平均は8月18日の安値3万1275円から24日の高値3万2297円まで1022円も上昇した。米国市場よりも先に日本株が底打ちした様相だ。

また、6月から下落トレンドが続いていた新興市場も底打ちしたようだ。マザーズ指数は6月21日の高値871.35ポイントから8月18日の安値708.22ポイントまで18.7%も下落していた。しかし、8月23日には高値751.88ポイントまで6.1%戻した。今後、米国ハイテク銘柄の上昇基調が強まれば日本でもグロス銘柄のさらなる上昇が期待できそうだ。

23日に発表されたエヌビディアの決算では実績と見通しが市場予想を大幅に上回り、懸念が払拭された。あとは市場関係者が最も注目しているジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演での発言であるが、仮に利上げを示唆する内容で株価が急落しても、そこは絶好の買いチャンスになることはすでに市場が示している。

潮流銘柄はローム（6963）、ジェノバ（5570）、平田機工（6258）。

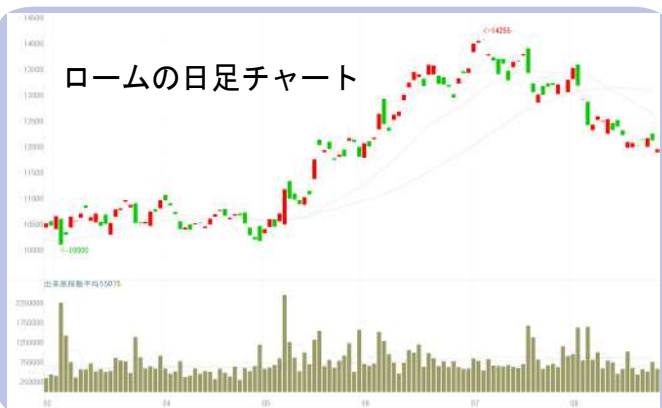
を行う。http://marketbank.jp



岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

金利上昇もハイテク買い

ロームの日足チャート





敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

週末にはジャクソンホール会議でのパウエル演説もあつたため、ポジション調整もあつたようだ。昨年はこの講演での発言によりNYダウが1000ドル強下落したため、警戒感も強かつたことは否めない。

今回のパウエル議長の講演での発言は今まで彼が述べてきたことと大きく変化はなく「経済指標の動向次第では年内の利上げもありうる」という

状況となつた。

週末にはジャクソンホール会議でのパウエル演説もあつたため、ポジション調整もあつたようだ。昨年はこの講演での発言によりNYダウが1000ドル強下落したため、警戒感も強かつたことは否めない。

今回のパウエル議長の講演での発言は今まで彼が述べてきたことと大きく変化はなく「経済指標の動向次第では年内の利上げもありうる」という

ことだ。この発言により株式市場は一時下落したが、その後「利上げにピクは近い」との認識が広がり相場は上昇した。

このジャクソンホール会議のイベントを無事通過したことにより、今週は日本株もリバウンドが入りそうだ。だが、上値も重そうである。

東証が発表した8月第3週の投資部門別売買動向によると、海外投資家は8週ぶりに売り越した。売り越し金額は7415億円と3月第2週以来の大きさである。

米国金利の上昇と中国の大手不動産の破産で中国の景気が懸念され、日経平均が1000円強下がった週ではあるが、海外勢の強気な買いは止まったようだ。

リバウンド相場に入るにしてもアヤ戻りの可能性が高いことには注意したい。チャートでは25日移動平均線(3万2300円)で跳ね返される状況が続いている。

一目均衡表では雲の下限(3万1400円)と雲の上限(3万2500円)の間で推移、下限近くでは買いが入るが、転換線(3万1839円)や基準線(3万2382円)が戻りの節目となっている。

雲の下限は切り上がっているが、このラインが下値として意識されるかがポイントとなる。割ってくるかと3万1000円割れを試す展開も想定できよう。

一方、上値は25日移動平均線が抵抗ラインとなる。抜けてくると雲の上限(3万2500円)が次の抵抗ラインとなる。この雲の上限を抜けてくると相場付きが変わると思われるが、海外勢が売り越しに転じた状況では当面は難しそう。

今週のレンジは3万1400円から3万2400円を想定、方向感の乏しい展開を予想する。

(ハチロク)

上値重くアヤ戻りに注意

イベント通過で上昇期待も

先週の日経平均は前週末比173円高となり、2週ぶりに週足陽線となった。前週が1000円強の大幅下落だったため、自律反発の動きで週初から4連騰したが、週末に大幅下落、週の上げ幅をほぼ帳消しにした。

週初からAIに必要なとされる半導体、エヌビディアへの好決算期待が高く半導体関連株が買われていたが、実際、決算が発表されると利食い売りが出て失速した。決算内容は市場の予想を上回る好決算だったが、それまでの上昇から「期待で買って現実で売る」

状況となつた。

週末にはジャクソンホール会議でのパウエル演説もあつたため、ポジション調整もあつたようだ。昨年はこの講演での発言によりNYダウが1000ドル強下落したため、警戒感も強かつたことは否めない。

今回のパウエル議長の講演での発言は今まで彼が述べてきたことと大きく変化はなく「経済指標の動向次第では年内の利上げもありうる」という

日経225先物日足チャート



